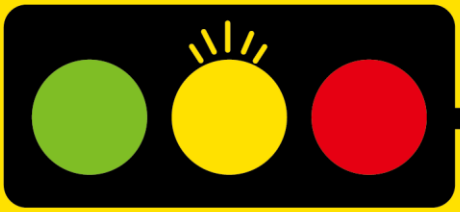


医療費47兆円超え

国民皆保険の維持に黄信号

健康保険料、4割は高齢者医療に

現役世代には6割のみ

給付と負担のアンバランス拡大

医療費2040年に73兆円突破

半分は後期高齢者が占める

月間医療費1000万円超

初の2000件突破

高額薬剤の影響鮮明に

医療の未来に
黄信号が点滅中。
あなたの行動で
未来は変えられます。

医療費の増加が続く中、
医療と国民皆保険制度の未来は黄信号

きいろ を

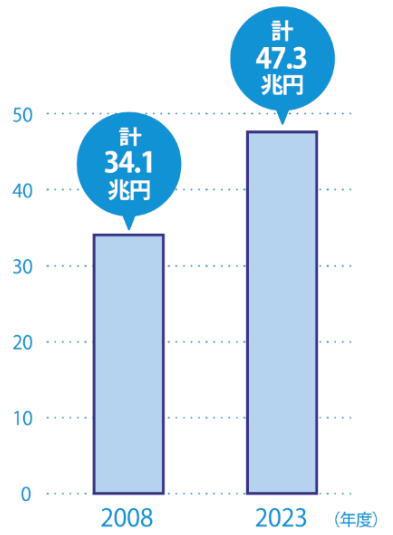
危 機的状況
医療と国民皆保険制度がピンチ

医 療費の増加
現在の国民医療費は47兆円

6(ろく) 割しか残らない現役世代の保険料
4割は高齢者医療へ

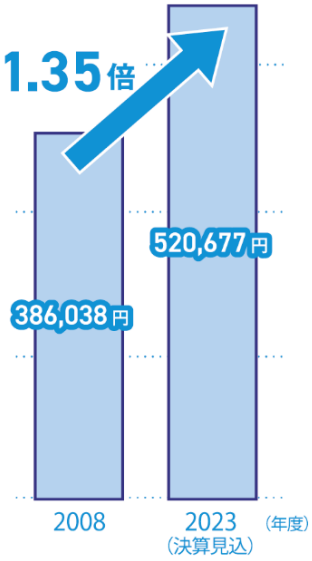
高齢者人口の増加は医療費の増加に大きく影響します。
65歳以上の高齢者人口は、2023年が約3,623万人。
高齢者人口がピークとなる2043年には約4,000万人に達すると推計されています。

高齢者人口は15年で2,822万人→3,623万人に増加。医療費も約13.2兆円増加



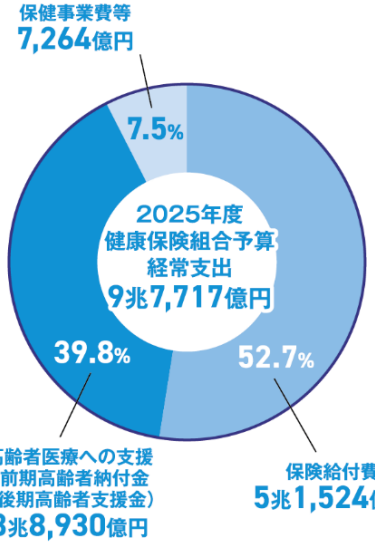
出所：厚生労働省「医療費の動向」平成20年度、令和5年度
総務省「人口推計」令和5年10月1日（確定値）

年間保険料は15年で1.35倍に!



健康保険組合連合会調べ

現役世代の保険料のうち約4割が高齢者医療に



健康保険組合連合会調べ

医療と健康保険の未来を変えるのは
一人ひとりの“みどりアクション”

みどり へ

理解しよう、
セルフメディケーションの力。

どんなに忙しくても、
必ず健診。

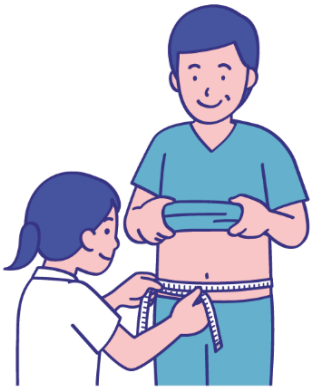
見よう
給与明細。
自分の健康保険料を
知ることから始めよう。

「毎月払ってるのに、
よく知らない」を、
今日で終わらせよう。

給与明細

今年も、
自分のカラダと
向き合う日を。

健診



軽い不調は、
まず自分でケアする
という選択。

セルフ
メディケーション

健康保険組合の
加入者の皆さまへのお願いです。

健康保険組合連合会は、これまで、団塊の世代が全て75歳以上となる2025年に向けて、医療保険制度改革に関する各種の政策提言を行ってきました。この間、ある程度の制度見直しは図られたものの、依然として現役世代に過重な負担を求める構造に変わりはなく、2025年以降も危機的な状況が続くものと見込まれます。さらに2040年にかけては、高齢者人口がピークに向かい、少子化により現役世代が減少していくなかで、医療費と現役世代の負担が急激に増大していくと見込まれています。これに備え、全世代で支え合う制度へ転換するための改革を急がなければなりません。そうしなければ、国民の安心の礎である国民皆保険制度を将来世代に引き継ぐことができなくなってしまいます。

このような状況を踏まえ、国民皆保険制度を守っていくために、私たち健康保険組合から加入者（国民）の皆さまにお願いしたいことがあります。

3つのお願い

1. 医療費のしくみや国民皆保険制度の厳しい状況についてもっと知ってください。
2. 自分自身で健康を守る意識をもってください。健診をきちんと受けてください。
3. 軽度な身体の不調は自分で手当てするセルフメディケーションを心がけてください。

私たちの活動には加入者（国民）の皆さまのご理解とご支援が重要となります。
ぜひとも皆さまのご意見をお聞かせください。

ご意見はこちらから

iDA健康保険組合

健康保険組合連合会